

告示	番号	4	慢性心疾患
	疾病名	拡張型心筋症	

## 拡張型心筋症

かくちょうがたしんきんしょう

### 概念・定義

明らかな原因が無く左室、または両心室が拡張し、収縮能が低下して、心不全を呈する疾患。組織上は心筋細胞の変性、線維化を認める。しばしば家族性を呈し、筋原線維や細胞骨格蛋白の遺伝子異常を認めることがある。突然死、うっ血性心不全、不整脈などを呈する。治療は、薬物治療、心室再同期療法、人工心臓の植え込み、心臓移植などである。治療困難で予後不良の疾患である。乳幼児など若年者ほど予後は悪い。

### 症状

易疲労、呼吸困難、体重増加不良など

### 治療

1. 日常生活の管理

無症状なら D の管理区分。有症状なら C の管理区分。原則として強い運動は禁止、学校の運動部は禁止。

#### 2. 薬物治療

有症状例には慢性心不全に対する治療をおこなう。

利尿薬、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン II 受容体拮抗薬を投与する。 $\beta$  遮断薬 (カルベジロールなど) の投与も考慮する。急性心不全には、利尿薬、フォスフォジエステラーゼ III 阻害薬、カテコラミンの点滴をおこなう。

不整脈に対しては、抗不整脈薬を投与する。

心室性頻拍症に対しては、アミオダロン内服や植え込み型除細動器 (ICD) が適応となる。

#### 3. デバイス治療:

心停止蘇生例に対しては、ICD 植え込みが適応となる。右室と左室が同期して収縮していない例や、心電図上 QRS 幅が広い例では、心室再同期療法のペースメーカー植え込みが適応となる場合がある。

#### 4. 心臓移植

内科的治療に反応しない場合には、心臓移植の適応となる。その前に状態悪化が予想される時は、人工心臓の植え込みが適応となる場合がある

抜粋元: [http://www.shouman.jp/details/4\\_15\\_19.html](http://www.shouman.jp/details/4_15_19.html)